

小型果実の種子食用ペポカボチャ新品種 「ゴールデンライト」

菓子のトッピングなどに使われるカボチャ種子はほとんどが輸入品のため、菓子業界から国産種子の供給が求められています。現在わが国で栽培されている種子食用ペポカボチャ品種は大型果実のため果実の運搬が困難になる場合が多いです。そのため、収穫作業の重労働が問題となっており、生産者からは小型で持ちやすい果実の品種を求められてきました。そこで、農研機構北海道農業研究センターでは、果実が軽く持ちやすい品種「ゴールデンライト」を開発しましたので、その概要を紹介します。

☆ 技術の概要

1. 「ゴールデンライト」の雌花および雄花の開花時期は、既存品種の「福種株式会社の食用種子カボチャ（以降、福種）」より早く、「ストライプペポ」とほぼ同等です。
2. 「ゴールデンライト」の主枝の伸長は生育初期から中期にかけて短節間性の草姿を示します。その特性は「ストライプペポ」と類似していますが、主枝の節間長は「ゴールデンライト」の方が短いです。株元着果率は「福種」および「ストライプペポ」よりも高いです。
3. 株当たりの果実数は「福種」や「ストライプペポ」に比較して多く、平均果重は軽いです。また、果実が円筒形で運びやすいことから、収穫時の作業性は「福種」や「ストライプペポ」と比べて高くなります(写真1)。
4. 「ゴールデンライト」の種子色は濃い緑色です。種子100粒重は「福種」や「ストライプペポ」に比べて軽いですが、収穫果数が多いことから、単位面積当たりの種子数ならびに種子収量は「ストライプペポ」と比べて同等以上で、「福種」の2倍以上になります(写真2)。



写真1 カボチャ果実の外観

左：福種、中央：ゴールデンライト、右：ストライプペポ



写真2 カボチャ種子

A：無処理のセイヨウカボチャ種子、
B：殻剥きされたセイヨウカボチャ種子、
C：ゴールデンライト、D：ストライプペポ、E：福種

☆ 活用面での留意点

1. 「ゴールデンライト」は慣行のセイヨウカボチャ産地で栽培可能ですが、特に病害虫の発生が少ない寒地・寒冷地の栽培に向いています。
2. 本研究成果の具体的な内容等については、北海道農業研究センターHP (https://prd.form.naro.go.jp/form/pub/naro01/harc_press) からお問い合わせください。

(日本政策金融公庫農林水産事業本部 テクニカルアドバイザー 吉岡 宏)